

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300865		
法人名	有限会社 郷		
事業所名	グループホーム 郷		
所在地	熊本県宇城市松橋町西下郷236		
自己評価作成日	平成22年2月16日	評価結果市町村受理日	平成22年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本県熊本市南熊本3丁目13番12-205		
訪問調査日	平成22年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玄関の前には、季節の花が咲き、畑では野菜が収穫したりと家庭の雰囲気にて心地よい生活を行っている。又利用者さん、家族の方にも「郷さんで入所できてよかった」と思っていただけ様、質の高い介護を目指し力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から入り広い田園風景や河川をのぞみながら案内板にそってたどり着いたホームから、入居者と職員の間やかな笑い声がこぼれ、「郷」の日常を感じ取ることができた。運営者の地域高齢者介護への熱い思いから開設されたホームは当初から、日常的な近隣との交流をはじめ、地域行事への積極的な参加や取り組みを行っている。恒例となった行事「郷・秋祭り」は、運営推進会メンバーの協力も得、100名を越す地域参加のイベントとなっている。持ち味を活かした職員のケアは入居者・家族の安心に繋がり、介護の世界に飛び込んだ若い男性職員の「この「郷」で多くのことを焦らず学んで自分の力にしていきたい」と語る姿は穏やかさの中にも力強さも感じ取れた。今後もホームが昨年開設した有料ホームと併せ、それぞれが持ち味を活かした「郷」らしい取組みが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自由、安全、自立、等を理念とし、利用者様の出来る範囲で楽しく生活出来る様にサポートを心がけ全職員が理念を共有している。	基本理念として「自由」「安全」に在宅復帰も目指す「自立」の3項目に、地域との連携を視野に「社会的支援・地域との交流」を掲げ、ホーム内に掲示している。入職者には管理者より十分な理念の説明を行い納得したうえで採用とし、職員間では朝礼やカンファレンス時に理念に繋がるケアについて確認を行い思いを共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の校区の子供会ともぐらたたき、どんどや、秋祭りの子供みこし等の交流やボランティアの方々の活動参加等により交流をおこなっている。	近隣とは日常的に野菜の差し入れや、料理法の情報交換など垣根越しの付き合いが展開されている。一人暮らしの方の見守りボランティアや地域行事や苦役への参加、体験学習受け入れなど積極的に行っている。毎年多くの地域の方の参加によりホーム秋祭りが開催されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の認知症の理解の向上に努めつつ、相談や地域の交流に生かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の状態、状況、報告等伝えたり、意見や助言など聴くことでよりよいサービスの向上に活かしている。	2か月に1度と定例化している会議は入居者・行事・職員研修などの報告や地域の情報収集をはじめ外部評価についても報告されている。会議メンバーの老人会長の協力により、これまで機械で実施していたが、臼・杵による餅つきになり、入居者の大きな喜びに繋がった。	今後は運営推進会議の中で、外部評価結果の報告の方法を工夫していきたいとしており取組が期待される。又、出席していない家族への周知方法についても検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様の人数報告や居室の空き情報を伝えたり、活動報告やボランティア状況・協力依頼と色々なサービス向上に向けての連携を行ない取り組んでいる。	運営者は実績報告や介護をはじめ福祉に関するホームの持つ情報を共有する為に、月2,3回役所を訪れるなど、良好な関係が構築されている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や勉強会などに参加しながら拘束の理解をなし、ホーム内では身体拘束をしないケアに徹している	高齢者虐待防止に関する教材を使用し他のグループホームにも呼びかけ合同で勉強会を実施し共有に繋げた。管理者はスピーチロックについても気づきはその日のうちに指導を行っている。又、一人ひとりが事例は自分のこととして受け止めケアに当たることをホームの姿勢としている。施錠もなく開かれた玄関を職員と一緒に自由に出入りする入居者の姿があった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講師養成研修会に参加したり、ホーム内での勉強会への参加などにより話し合いなど行なったり利用者様の観察に十分な注意をし見過ごされる事がない様に24時間を通し努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講師を招きホーム内でも研修会を行なったりすることにより各自が利用者様の支援に活用できる様に取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの現状などわかりやすく丁寧に説明を-心がけし、会話時などの納得を確認し、より安心感をもっていただける様に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の話し合いの中でご意見箱からの要望等を公表し、運営に活かしている。	家族が訪れやすく意見を出しやすい雰囲気にも努め、利用料金に関しても面会を兼ね、できるだけホームへの持参をお願いしコミュニケーションに繋げている。入居者の食事に対して要望の多い寿司を定期的に取り入れた「1・15日の寿司の日」は毎回好評で楽しみとなっている。	重要事項説明書に明記されている事業所の相談・苦情窓口と併せ、公的機関の連絡先を記入し説明することにより透明性や利用者・家族の意見の反映に繋がることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の話し合いの中でご意見箱からの要望等を公表したり、食事会を設け運営に関する意見交換の場を作り反映している。	定期的な話し合いや職員の声を聞く「グットライカードボックス」を事務室に設置したり、リラックスして意見交換のできる食事会などを実施している。入居者のADLやゆとりの空間作りに配慮したテーブル・ソファの配置の変更など職員からの意見やアイデアを取り入れられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の要望や意見などに対し耳を傾け笑顔と活気のある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質を高める介護を目指してそのスタッフの適した時期の外部研修への参加を積極的に実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホーム現場の交流を実施する事によりホーム内の利用者様のサービス提供の見直しやレベルアップの効果につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを実施する中で本人の意思を確認したり情報収集を多くしそれに沿ったケアに心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	早期に状況把握に努めコミュニケーションをとる事により利用者、家族等への理解や信頼関係に心がけることにより不安を軽減できる様努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様にとって「何が今大事なのか、何を希望されているのか」又家族の方は、「何を願われているのか」など見極めながら安心したケアサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ラジオから流れるのど自慢を聴いたり歌を唄ったり、話をしたり、家庭の雰囲気を保ちながら同じ生活の場として取り組んでいる。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、利用者様とのパイプを通しやすくし、きずなを大切にサービス向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出のある人や家族等との連絡を取り、支援に努めふさと訪問や思い出の場所での交流を図り実施している	地域の行事に出向いたりホームの秋祭りに多くの地元の参加を呼びかけることで、知人や馴染みの方との交流に繋げている。これまでの行きつけの理・美容支援やふさと訪問・電話や手紙のやり取りを支援するなど入居者のこれまでを大切に支援を実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人の把握をすることで交流の手助けを支援を行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族との関係を大切に在宅へ訪問したり、手紙を出したりして近況状況や、情報収集などを行ない相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の「できること」「できないこと」などライフスタイルに沿ったケアを実施し本人の意に沿ったケアに努めている	一人ひとりとの日々の関わりの中で、言葉や表情から思いや意向を汲み取っている。意志の把握が困難な場合は、家族や来訪時の親類や知人など関係者からの情報や職員間で気づきなどを共有しながら本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家の家具などいつも使っていた道具を側に置くことにより安心感をもたれ生活環境の状況などの観察に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ベッドに臥床されたり、カセットから流れる歌を聴いたり、会話など自由に過ごされているその人の生活スタイルの中で常に病状変化に注意を注いだ介護を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にスタッフ全員によりカンファレンスを実施する事で一人一人の残存機能を中心としたケアを取り組み情報交換にて楽しく過ごされる様介護計画を実施している	本人・家族との話し合いや時間を大切に意向を把握し、医師との意見交換や全職員でのカンファレンスを行い計画を作成している。毎月のモニタリングと3か月毎の見直しや、日々の記録に評価を残し必要に応じた見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を観察する中で変化に注意し記録表に記入する事で職員間での情報を共有し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	活動能力が最大限になっておられる方については、デイサービスへの参加や自宅での昼間の在宅で過ごした時間をもうけたりしてその時のニーズに合った取り組みを行なっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	秋祭りの開催にてボランティアの方々や子供のバトン、太鼓、歌、踊りを観る事により、拍手をしたりマイクを握り歌ったりする事で自我を目覚めさせ活力源を引き出している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の方の受診を中心としているが都合により受診出来ない場合は対応を行っているし、受診の際情報提供として温度表を持参している	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援している。受診は基本的には家族対応としているが、ホームでも柔軟に支援し家族と共有することで入居者の健康管理に努めている。協力医療機関の往診や夜間・緊急時の対応は入居者の心身を支え、家族・職員の安心・信頼に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定を行っている中で変化などに気づき報告したり、温度表に傷口の記録や一週間後の経過の記録等に記載しより確実な情報を提供できる様に抜技している支援を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	一日に一回は病院訪問をしたり洗濯物を持っていったりしての訪問時に看護師との会話の中で情報交換をしたり主治医との情報交換又、家族と相談を行うことで安心した治療が出来る様に支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル依頼、受託書により説明と同意を得た上で実施しているし、又重度化された場合には家族の方々への頻回に報告を行なう事で方針を共有しチーム全員によりケアに取り組んでいる	入居時にホームとしての取り組みを説明している。重度化・終末期の対応については、本人・家族の意向を踏まえターミナル依頼書、受託書を作成し、協力医療機関・家族・職員など関係者と方針を共有しターミナルケアが行われている。	今後も職員のメンタルにも配慮した重度化や終末期に向けた対応の研修会の実施が期待される。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に開かれるセミナーなどの参加により対処法など全職員で身につけ取り組んでいる	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営規定により年2回の消防訓練を実施しており又、昼夜を問わず想定訓練を地域の方々に参加していただき全職員が身につける訓練を行っている	屋・夜を想定した総合火災訓練を年2回地域の参加を得て実施している。訓練後は消防署担当者の指導やアドバイスを受け次回の訓練に繋げている。職員は有事の際、通報や消火器使用など落ち着き自信を持って行えるよう訓練に真摯に取り組んでいる。 今後は火災訓練と併せ、風水害や地震に対する避難方法についても計画的な取り組みや、夜勤者などによる最終火元確認・記録により職員の安全意識や、入居者・家族の安心に繋がることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や人格を尊重した上での敬語や尊敬語を使いプライバシーを損ねない十分な配慮を持っての言葉かけやなじみの言葉かけなどにて対応している	人生の先輩としての敬意や尊厳に配慮した対応を心掛けている。馴染みの方言についても親しさの中にも慣れ合いにならない言葉使いを大切にしている。個人情報やプライバシー保護の研修会にも参加し、全職員で共有している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で行動や表情等などによりスタッフが見逃さない様、心がけ会話をする事により本人の思いなど知る事ができ、自由にできる様 働きかけている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意志表示に合った生活をしていただき、自由に毎日楽しくその人のペースを大切にしたケアを支援している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡台を持って来られ、化粧水や口紅など自由にされているし、一人一人のスタイルを把握し服などに取り組み支援している又、行きつけの美容室の利用も継続支援を行なっている	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえなど出来る能力を発揮しながら声かけを行なうことでメニュー表を考えたり職員と食事や片付け物など行っている	入居者の希望や差し入れ食材を取り入れながら一緒に献立を作成し、下ごしらえや片付けなど入居者のできることを一緒に行い食事を共にしている。季節感や器・盛り付けにこだわった品々は楽しみとなっている。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼の状態などにて二度炊き、ミキサー食、とろみ食の考慮などや残食チェックや食事チェック表、水分量など一日1500cc摂取に取り組んだ支援を行っている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の出来る能力にて食後の口腔ケアを実施し、夜間については、義歯洗浄剤にて除菌消毒を行ったケアを実施している			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを知る事により失敗やオムツの使用が減る事ができるし、又トイレに座ることでポータブルトイレとは違った型となり自立へとむけた支援に取り組んでいる	個々の排泄パターンや表情・しぐさから声掛け、誘導を行い、トイレでの排泄を支援することで、オムツの使用から、リハビリパンツへ移行するなど自立に繋がっている。夜間もポータブルやトイレ使用など個々に応じた支援である。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表にて2日目からは10時・15時に大根エキス入り活性水素水の摂取などにより水分補給に心がけ野菜を多く取り入れたメニュー作りを工夫したり毎日の運動に時間を設けたりしての個別の支援を行っている			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様のニーズに合わせての入浴や月一回の体重測定時にゆっくりと入浴を楽しんでいただいたり、入浴剤の使用や四季のゆず湯、しょうぶ湯など工夫によって楽しい入浴の支援を行っている	一人ひとりの希望や体調に応じ希望があれば夜間やシャワー浴にも対応し週3回程の入浴を支援している。拒否の方へもタイミングや信頼関係による声掛けにより支援し清潔保持に努めている。職員の持ち寄った菖蒲・ゆずなどの季節風呂や、ホームの庭で収穫したハーブ・バラを使った楽しい入浴を取り入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人のスタイルにて自由にくつろいでいただき、傾眠された時などそっと毛布をかけるなどさりげない支援を行っている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事法の説明書により用量を把握し、排便の状況により下剤の服薬など身体把握に十分注意しながらケアを行っている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のニーズに合わせ歌を唄ったり曲を聴いたり、料理の下準備をされたりして出来る限りの最大限の力を発揮したりして気分転換等への支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の表情など観察しながら買い物に声かけしたりしていつでも外出できる雰囲気を作っている、友人や家族の方と共に出かけられる様支援を行っている	日常的にホーム内の敷地や近くのグランドへの散歩・菜園の手入れ・収穫など入居者の希望や体調に応じ支援している。庭先でホーム愛犬との外気浴やおやつタイムは入居者の楽しみとなっている。ドライブを兼ねた買い物や季節の花見の他、ボランティアや家族の協力を得て、桜の見物や外食も支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては家族の理解と協力にて本人や家族の意に沿った支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が書かれた手紙は来所時に渡したり、投稿したり在宅へ届けたりしている又電話の対応など自由に連絡が出来る様支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節により食堂、居間のカーテンの交換や冷暖房の設備等による空調関係又、廊下と浴室の温度差など考慮し、食堂には光と風が入る様設備されており常に居心地よく過ごせる工夫をしている	玄関前の庭には、季節の花々や鉢植え・テーブルが置かれ日光浴やお茶を楽しむなど寛ぎの空間である。リビングは採光よく入居者が安全に歩行できるようにソファやテーブルが配置されている。浴室・トイレは清潔に保たれ居心地の良さに繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室には椅子やソファが配置されている為に利用者様同士で楽しく会話をしたり、日なたぼっこや歌を唄ったり聴いたり自由に過ごせる様に工夫をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたテレビや鏡台、家族との写真や置物などを置く事により家にいる感覚で居心地よく過ごせる環境作りの工夫を行っている	個々の好みやADLに応じ家族と相談しながら居心地良い居室作りを支援している。テレビやソファ・思い出の写真・お気に入りの歌手のポスターなどの持ち込みやその方にあった家具(木製イスやチェストなど)がホームより準備され入居者の落ち着く空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者様の居室には名前札をかかげ、トイレ入り口には造花にて場所がわかる様心がけたり、お茶を注いでいただいたりテーブルを拭いていただいたり利用者様の自立した生活が送れる様工夫を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

